

漢方薬は学生に効くのか？Part II

経済学部経済学科准教授 則長 満

今回の紀要第 29 号のテーマは「学生の成長を促す授業の試み」である。私はこれまでの追手門学院の学生の成長を促すためにいろいろな試行錯誤を行い、過去の紀要にも一度同じテーマで実践記録という形で報告を行ったが、今回はその続編である。漢方薬と書いたのは直接すぐに効果が表れる薬ではないがじわじわと効き目があり「学生の成長を促す」効果があるのではないかという意味で用いている。

では漢方薬とは具体的に何を表すかと言えば、学生達に「元気の出るビデオ」を見せることである。私は経済史、外国経済史を中心に経済学部で教えているが、誰しも 90 分間集中力が続くわけではない。日本の学生は生まれた時から TV のそばで育ち、TV の影響を受けながら育っていく。テレビ番組には必ず番組本体よりもカネをかけた CM が流れる。洗練された音楽、美しい映像、赤ん坊でさえ、泣いていても CM が始まると泣き止むと聞く。そんな環境で育った学生には CM が入らないと集中力は続かない。我々の場合でも興味のあるテーマの講演会に参加したとしても、一生懸命聞いていても気がつけばこくりこくりとなることもある。ましてや、単位取得が主目的である学生達においては当然居眠りは始まる。そのため、いかに授業に集中させるかということで CM として始めたのがこの漢方薬処方である。

この「元気の出るビデオ」は全く授業とは関係のない内容だが、一度見れば非常に元気の出る、やる気が出るというドキュメンタリーを中心にしたビデオである。登場する主人公達はたいがい同年代の大学生であるので、学生達は自分と似た境遇の主人公の悪戦苦闘ぶりやがんばりを見て、同情したり困難に立ち向かう力をもらうのである。もちろん、学生だけでなく私も元気をもらう。

どのようにして元気ビデオを手に入れるのか？最近の多チャンネルのテレビでは多くのドキュメンタリーを放送している。日頃から小まめにテレビ番組表をチェックしておき、面白そうなドキュメンタリーがあれば、予約して録画をしておき、私が一度内容を確認した後、適当な長さのビデオに編集をし直すのである。あまりに長いと学生達の集中力がなくなり逆効果となるので注意して編集を行っている。

これまで多くのビデオを見せてきたが、最近好評だったのは、数年前に NHK でやっていたドキュメンタリー番組で「僕は言葉が見える」というテーマで近畿大学のアメリカンフットボール部の耳の聞こえない学生を扱ったビデオがある。この主人公の学生は生まれつき全く耳が聞こえない

が、小学生時代に担任の先生から耳が聞こえないことで引っ込み思案になってはいけなとアメリカンフットボールに誘われたことがきっかけで、それ以後アメリカンフットボールの魅力に取り憑かれる。

この学生が育った京都で魚屋を営むこの家庭では両親の涙ぐましい努力が彼の成長を助ける。彼の場合は生まれつき全く耳が聞こえないことがわかり、父親は性格が暗くなっていけなと活気のある店で息子を手伝わせ前向きな性格にさせる。一方、母親は手話を使わせることを嫌い、1000枚にもなる自分で考え出した発音カードを使って彼に発音を教える。例えば、「かたづけなさい」という時の口の形を母親が見た唇と歯の形をカードに書いて、何度も反復練習をさせて発音をマスターさせた。小さい頃に見たカードを久しぶりに見た彼は母親のカードにかける意図を理解した彼の泣き顔に学生達も涙をそそられる。両親の努力によって、彼に物怖じしない明るい表情と観察力と集中力と読唇術が身についた。

そんな彼は高校ではレギュラーとなって高校日本一に二度もなり、大学でも関西の代表選手に選ばれた。アメリカンフットボールを通じて、仲間との友情をはぐくみ、今は近畿大学の職員となってアメリカンフットボールの指導に当たっているはずである。

そんな彼の努力と家族の支える姿を見たうちの学生達は最初は眠そうに授業を聞いていても、このビデオを見始めると背筋が伸びてきて「自分は今まで何をしていたんだ……僕も頑張らねば……私も頑張らないと……」などと反省し、前を向き始める。ビデオを見た後の後半の授業は背筋が伸びて、しっかりと聞くようになる。このときの学生達の反応は過去の紀要に掲載しているのでは非お読みいただきたい。

さて、前置きが長くなってしまったが今回のテーマは11月にテレビ大阪で放映された「ガイアの夜明け」という番組である。タイトルは「息子達の就活戦争」ということで、11月現在で就職率が56.7%という就職氷河期を超える現在の厳しい就職活動にどう大学生達は立ち向かっているのかという非常に生々しいビデオである。

番組ではまず高校生の就職状況例から始まる。最初のビデオに登場する奈良県のある工業高校は、偏差値的には優秀とは言えないが、ここ数年就職率100%を達成している。就職先もトヨタ自動車、シャープ、本田技研など、追手門学院の学生達にとっては垂涎的である企業の名前が並び、学生達は驚きの目でビデオ画面を見つめる。その高校では入学当初から実習を中心とした授業を行い、目標を持たせてできるだけ多くの資格を取らせようとしている。電気工事士や危険物取扱者など一人で多くの資格を持つ生徒もいる。

次に現実の大学生のケースが4例続く。最初は就職のために留年を決意する早稲田大学の学生の男子学生A君のケースである。彼は3回生の1月から就職活動を開始し、4回生の夏まで就職活動が続けるが、一つも内定が取れずに、必修の単位も落とすこととなって留年となる。休日を利用して実家の両親に就職活動の報告を兼ねて、就職のための留年の決意を伝えるが、両親からは「安易」との厳しい反応を聞き失意のうちに下宿に引き上げる。

2 例目は一橋大学を今年春に卒業した B 君のケースである。彼は一橋大学の学生と言うことで最初は就職活動を自信满满で開始するが、受けた 50 社からすべて内定をもらえずに徐々に自信をなくしていく。やっとのことで某メーカーから在学中に内定を得たが、他の会社の最終面接の結果待ちをするためにそのメーカーの内定を辞退する。その後、3 月下旬に大学は卒業をするが、その最終面接を受けた企業から 3 月 31 日には不採用の通知を受ける。なんと新年度のスタートの日から失業者になってしまうのである。そんな B 君もその後も就職活動が続けるが既卒者の就職は新卒者の就職よりもさらに厳しく、悪戦苦闘の結果、最初は上場企業を目指していた B 君はやっとの想いで社員 8 人の印刷会社に就職が決まる。早稲田、一橋という追手門の学生にとっては高嶺の花のような大学においても、このような厳しい就職状況を目の当たりにして、現実を突きつけられたビデオを見る学生の目は厳しいものとなる。

3 つめからのケースはいわゆる普通の就職活動はしない新たな道を探るケースである。C さんは東京農業大学で自然科学を専攻する学生であった。普通に就職活動を行い、何十社も受けるが内定はもらえない。学生の頃から農業経営に興味を抱いていた C さんは「ボラバイト」という新しい就職の形を取って自分の夢に近づこうとする。このボラバイトというのは、仕事はしたいが内定はもらえないという学生に自分が将来的にやりたいという仕事を体験させながら、アルバイトという形で収入を得られる仕組みであり、ボランティアとアルバイトを結びつけた形態といえる。C さんにとっては、日給的には 4000 円という安い価格ではあるが、農業体験を通じて農業経営の仕組みを体験することができて、収入が得られるということになる。追手門の学生達はやっとな将来に明るい希望が灯るビデオの展開にほっと一息安心をしたかのような反応を見せる。

最後の 4 つめのケースではさらに元気がでる学生が登場する。大阪大学の D 君である。彼は現在の就職のシステムでは、どれだけ頑張っても自分の希望する企業へ入れる可能性はかなり低いと考え、普通の就職の道を諦め起業という勇気ある決断をする。どんな仕事を起こすのか？彼は熊本出身で一人親家庭で育ち、現在もボランティアとして一人親の家庭の子供に勉強を教えている。彼は自分が一人親家庭で苦労した経験から新しい形態の塾を起業する。一人親の家庭の子供には授業料を安くして大阪大学への入学のための塾を開く。教えた生徒が大阪大学へ入学すれば、その生徒に奨学金を与え、さらにその塾で講師として雇い、奨学金を返してもらうというシステムである。友人にも借金をしながら、起業資金を必死で集めて立ち上げにこぎつける。

時間的には 43 分と少々長いので、今回のビデオは CM としてではなくて、特集という形で学生に見せた。このように最初は高校生の成功例、あとは 4 人の現役大学生のビデオを見せることによって最初は悪戦苦闘の内容に落ち込んで見ていた学生も 4 つめのケースともなれば、追手門のすぐ隣の大学の学生の登場、母親を思い遣り、自分と同じ境遇の生徒を助けるという起業形態に驚きを覚えたのか、また、身近に感じたのであろう。多くの学生が元気をもらったような反応を書いている。

このように毎時間何らかの形で授業内容に対するアンケートを書いてもらって、次の時間にはす

すべてのアンケート結果を学生に返すようにしている。授業で隣に座る同じ追手門に学ぶ学生であれど、日頃全く何をどう考えているのか分からない。しかし、このような形で自分と同じように授業を受けて、同じようにビデオをみた隣の学生が見て感じて書いたものを読めば、かなり理解することができる。ゼミの学生や授業に毎時間出席してきている学生の話によれば、「先生のアンケート結果を読めば、追手門の学生も捨てたもんじゃないってことがよくわかって嬉しかったです！」などと伝えてくれる学生もいれば、「アンケート結果は小さな字でいっぱい書いてあるので帰りの電車の中でゆっくり読むのを楽しみにしています。」と伝えてくれる学生もいる。

以下、11月の後半の授業でこの「息子達の就職戦線」を見せた後のアンケートを回生別に書いたものである。それぞれの立場に置かれている学生の特徴、気持ちがよく表れていると言えよう。日頃、経済の専門的な授業をしていてもなかなか本音まではわからない学生達の姿勢、考えもよく伝わりこちらも元気になってくる。ひょっとするとこの漢方薬、私が元気になりたいために、学生達に飲ませているのかもしれない。

1 回生

★今まで1番活力をもらえたビデオでした。どんな道を取捨選択したとしても気持ちを折らさないで挑戦し続けることが大事だと思った。就職について安易な気持ちでいたが本当に自分の意識を変えるきっかけになった。諦めずに「挑戦」!! NEVER GIVE UP!!

★予想以上に就職のできにくさにとても驚いた。今現在自分のやりたいことが見つかっていない時点で少し出遅れていると思います。なので早いうちにやりたい仕事を見つけてその仕事に必要な資格を取るなどして3年になる前に下準備を整えておこうと思いました。一気にやる気が出たのでこのビデオを見てよかったと思います。

★人それぞれの考えを聞けてよかったです。有名な大学でも必ずしも就職先が見つかるわけでもなく会社にとって欲しい人材が必要なんだと思いました。私は就職活動について深く考えたことがないので今のうちから興味のあることを見つけていきたいです。

★思い通りにいなくても諦めず自分の行きたいところに行けるように努力していきたいです。

★就職すること自体当たり前だと思っていた。でも今は就職できるのか逆にできないという考えしかなかった。先輩たちを見ても思い通りにいかない人が沢山いるので本当に厳しいと思った。あと2年でしないといけないと考えるととても気持ちが重くなった。でもやりたい仕事のジャンルがあるのでそれを目指して頑張りたいと思う。

★現在の就職難は本当に厳しく自分も今からとても心配になりました。大学生活で本当に自分がしたいことを見つけて行かないといけないと思いました。

★自分は1回生なのですがまだ目標が決まっていない。いろいろなことを経験してやりたいことを見つけようと思いました。

★就職活動に対しての自分の考え方と世の中の就職活動に対する考え方が違ってて正直驚いた。
自分の思っていたものよりもはるかに厳しいものだった。

★今日のビデオはとても現実的なことだったので気分がすごい落ち込みました。自分が本当にやりたいことはなんだろう？と改めて感じました。今は就職氷河期なので少しでも就職活動に役に立つことをしようと思いました。

★自分はまだ1回生だから就職についてはまだ考えなくてもいいという考えはなくなりました。今の自分は就職について少しは考えているが深くは考えていません。なのでしっかり目標を立てて今のうちから考えていこうと思いました。

★今回のビデオ見て就職活動は本当に大変なんだなと思いました。僕も就職活動をするにあたって自分のしたい仕事を見つけ自分という人間をアピールできるように努力したいと思いました。

★今就職活動と焦っても仕方がないと思いました。しかしこのビデオ見て今の生活を続けていても良い結果は出ないと思ったのは確かです。少しでもやりたいことがあれば積極的に取り組みをしたいと思います。

★大学1回生だからまだ大丈夫だと思っていたらダメだと思いました。どこまで自分を追い込んで大学生活を送るかがカギになると思います。親にどこまで理解してもらうかがもいると思う。

★今就職活動がどれだけ厳しい状況かを知ることができた。まだ1回生だけど先のことがとても不安になった。多くの大学生が悩んでいるのでその中で自分はどのくらいがんばっているのか考え出した腰が浮く気分だ。幸いにも自分が何をしたいのかに自分で気が付いたので頑張るだけだ。

★今回のビデオ見て就職の厳しさを実感した。今までの自分はどこかで就職のことを簡単に考えているところがあったのでいい刺激になった。

★いろんな考え生き方があると思いました。最後に出てきた大阪大学に通う渡さんは本当に自分がしたいことが分かっているそれを行動に起こせるということがとてもすごいと思いました。この番組自体を見て良い意味で危機感を持ててよかったです。今からでも就職についていろいろ調べたり取り組んだりするのも遅くはないと思いました。

2 回生

★就職活動の厳しさが分かった。少し不安な気持ちが出てきた。

★就職活動の厳しさをひしひしと感じました。

★すごい考えさせられました。自分も将来のことがあやふやなのでしっかりと向き合って考えていきたいです。

★やりたいことに向かってがんばらないといけないと思った。

★就職活動が身近に思えた。自分も夢を持って頑張りたい。

★自分の就職活動が強くなりました。がんばるぞと思いました。

★来年の今頃には就職活動をしていると思うのであと1年でやりたいことを見つけて自分の望む道に進めるように頑張りたいです。

★厳しい時代に自らががんばらないといけないと思います。

★もうすぐ自分にもやらなければいけない就職活動。現場は薄々話を聞いていましたがかなりリアルな話を見てもっと頑張ろうと思いました。

★目標に向かって頑張るのはカッコよかったです。何か現実的すぎて怖くなりました。

★今からでも企業研究を始めないとやばいと思った。

★この時代先を考えるのが嫌になります。やりたいこともないので在学中に早く決めて就職したい
と思います。

★目標と働く意欲を見つけないといけない。

★自分自身この道を歩くので不安でいっぱいです。

★就職活動は今先輩たちが焦っていて自分にはそんな実感はないがビデオを見て早めに決めるためにできることをしていきたいと思った。

★自分も頑張ろうと思います。やりたいことを早く見つけます。

★親に心配かけたくないと思います。

★就職活動の現実を見て必死にならないといけないと思いました。

★就職活動のことについてどのような現場であるかも知ることができました。

★就職活動が怖くなってきた。これから本当に考えることが必要だと思う。

★就職活動は不安でいっぱいです。自分が希望している職業に就きたいけれど今は内定もらえれば何処でも良いという考えは嫌です。納得の行く就職活動がしたいと思いました。でもまだ考えが甘いと思うので真剣に考えなくては出遅れそうで怖いです。

★ボラバイターというのを今日のビデオで初めて知った。僕も就職活動がんばらないといけないと思った。大阪大学の3回生の奨学金制度がとても斬新やと思った。

★正直見ていてつらかったです。私も就職活動をしている身ですので就職できなかったことを思うとぞっとしました。まだ就職活動が始まったばかりなので人のことは言えませんが内定がもらえない人にはまだ「甘さ」があると感じる部分がありました。私も他人からそう見られることのないように気を引き締めようと思いました。

4 回生

★このビデオ見てボラバイトを初めて知りました。やはり就職活動は厳しいです。自分もまだ就職が決まっています。でもやりたい目標が見つかったので専門学校に行こうと思っています。渡さんは自分より年下なのにオリジナルの塾を開くなんてすごいと思います。

★自分の父親は2年ほど前に会社の人事課の人に混ざって新卒向けの面接官として採用の手伝いをしていました。その父親から聞いた言葉に「この時期に就職活動しなくてよかった。」ということが含まれていたことが今でも恐怖でした。現在2012年度卒向けの新卒採用セミナーが始まりました。今年の就活情勢が気になります。

★長男が今就活どころか性格的な問題と言うか病気ですごく大変になっているから今回のビデオと間接的に重なる。4回生で未だに卒論のテーマを決めていないしもちろん内定はまだだからすごい深刻。

留学生

★今は大学生よりも技術学校の学生の方が就職にはもっと簡単ですね。中国もこういう様子です。やっぱりこれは今の社会の選択ですね。もし本当に自分のやりたいことをやればそれはなによりだ！

★現在就職活動大変だと思います。中国では大学生は就職はとても困難です。

★今日は「息子たちの戦争」というビデオを見せていただきましてとても感動させられました。このビデオはかなり現在の就職の難しさと厳しさが分かりました。いくら有名な大学を卒業したと言っても必ずいい職場に努められるとは限らないということがはっきり分かりました。やはり現在の社会は学歴重視だけではなく本当に自分が何か腕に持っていることは大切だと思います。大学生の就職戦争とはいえ私はそれは自分と影の自分との戦いだと思っています。卒業後は私が日中関係に関わる仕事に努めたいと思っておりそのために日本語だけではなく英語も大切だと思います。そのためにはがんばっていききたいと思います。

頑張れ！追手門の学生達！